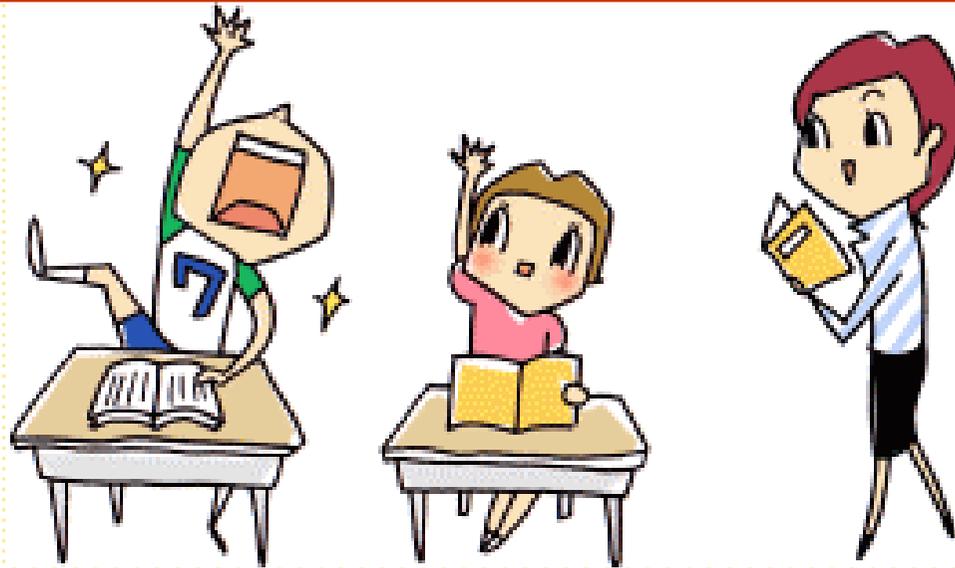


社会認識形成を支援する 映像メディア教材の開発と試行



■ 受講生

上村勇介, 坂本昌代, 佐々木美緒, 鳥井千寿子, 中田賢一,
松尾健太, 松本美沙子, 皆川峰寛, 萱野哲平, 木村光二,
田川孔明, 赤穂徳郁TA

■ 指導教員

草原和博, 原田昌博, 麻生多聞, 町田哲

「教育実践研究」のテーマ

どんなことをしたか？

研究成果(1)ー教材開発ー

研究成果(2)ー試行実践ー

なぜそんなことをしたか？

ねらい(身につけたい知識・能力)

ねらい達成のためのスケジュール

そうすることで何が得られたか？

大学院生・協力校教員から見た意義

「教育実践研究」のテーマ

科学的な社会認識形成を支援する
映像メディア教材を開発する

科学的な社会認識

「なぜ？」 「なに？」 の探求を通して社会的
事象の本質や因果について仮説をつくったり、
それを修正・応用していくこと

映像メディア教材

- ①探求のきっかけとなるような事象・素材を
提供している映像、
- ②仮説をつくったり、それを修正・応用して
いく思考プロセスを示唆している映像

研究成果(1)―教材開発―

経済学の視点

1 「特産品って何だろう？」

- ・**中心概念**：特産品
- ・**素材と問い**：藍住のにんじん，鳴門のさつまいも，神山のすだち... 「いったい特産品って何だろう？ どうして特産品が生まれてくるのだろうか？」

地理学の視点

2 「橋ができるとは」

- ・**中心概念**：ストロー現象
- ・**素材と問い**：明石海峡大橋，浜田自動車道，関西のJRネットワーク... 「交通の流れが変わると，地域にどのような正負の影響が出るだろうか？」

社会学の視点

3 「新聞のやくわり」

- ・**中心概念**：情報の序列化，情報の生産・消費
- ・**素材と問い**：地方紙：徳島新聞・神戸新聞，全国紙：毎日新聞... 「様々な新聞で，伝え方が同じ所はどこだろう？ 違う所はどこだろう？ それはなぜ？」

法学の視点

4 「裁判って何だろう？」

- ・**中心概念**：罪刑法定主義，司法手続き，法・ルール
- ・**素材と問い**：仮想の刑事事件（キムテツ事件），裁判員制度... 「罪と罰はどのように決まるか，その決まり方はどのように変わろうとしているか？」

歴史学の視点

5 「巡礼ってなんだろう？」

- ・ **中心概念**：歩き遍路，遍路の目的・方法の変化
- ・ **素材と問い**：四国八十八箇所，靈山寺等... 「お遍路の今と昔はどう違う？最近の変化は？なぜお遍路の姿は変わっている？」

歴史学の視点

6 「藍づくりがもたらしたもの」

- ・ **中心概念**：商品作物，貨幣経済
- ・ **素材と問い**：阿波における藍作... 「なぜお腹のふくらむお米ではなく藍を作るのか？藍を作り始めて，地域は生活はいかに変わったのか？」

映像メディア教材の一部を
ご覧ください

研究成果(2)―試行実践―

1 環境・規模の異なる学校で

- ・ 県内都市部の大規模校：徳島市立津田小学校
- ・ 県内農村部の小規模校：美波町立木岐小学校
- ・ 県外大都市郊外の学校：豊中市立寺内小学校

2 学年段階の異なるクラスで

- ・ 第3学年：津田小学校 佐藤章浩教諭
- ・ 第4学年：木岐小学校 井内直加教諭
- ・ 第5学年：寺内小学校 中西良介教諭

いずれも鳴教の卒業生・修了生

「教育実践研究」の趣旨を理解している先生方

3 同じ教材を学年段階をかえて試行

- ・ 第3学年：藍づくり，裁判，特産品，新聞
- ・ 第4学年：藍づくり，明石海峡大橋，新聞，巡礼
- ・ 第5学年：新聞，明石海峡大橋，裁判

4 教育内容と地域素材を関連づけて

- ・ 津田小学校：「特産品って何だろう？」を活用して「これぞ徳島の特産品を探せ！」へ発展
- ・ 木岐小学校：「橋ができるとは」を活用して「日和佐道路の開通が変えたのもの」へ発展
- ・ 寺内小学校：「新聞のやくわり」を活用して「大阪の様々な新聞を比べてみよう」へ発展

津田小学校



木岐小学校



寺内小学校



各授業の概要は、
資料をご覧ください

ねらい(身につけたい知識・能力)

1 映像メディアの開発と試行を通して

(社会科教員の資質)

「科学的な社会の見方・考え方」
を育てるのに求められる

- 内容構成と学習過程に関する理論を把握できる
- 同理論にもとづいて、教材とそれを活用する複数の授業モデルを開発し提案できる

2

**協力校の教員とともに
授業を実践し、反省する過程で**

(教員共通の資質)

**「分かる授業」「面白い授業」を
成立させるのに求められる**

- 授業技術**（例えば、適切な指示・発問、資料提示、教材加工、議論の整理、板書、班活動のさせ方、子どもとの関わり方など）
を体得させる

ねらい達成のためのスケジュール

【第1期】教材研究期

6月

7月

8月

- ・ オリエンテーション...テーマの決定
- ・ 科学的社会的認識形成を支援する教材がそなえるべき条件の解明
 - 具体的な事実と一般的な理論の往復
 - 子どもの常識のひっくり返し
 - 往復とひっくり返しのための問い・ゆさぶり
- ・ 教材の内容構成（中心概念）の構想発表
 - テーマに係わる社会諸科学の概念の検討
 - 概念の裏づけになる史料，データの収集

10月

【第2期】教材開発期

- ・ 映像メディア教材の台本の確定
 - 現職院生を招いて有効性を確かめる
 - 取材と資料収集を繰り返して試作品づくり

12月

- ・ 台本に基づく試作品の発表
 - 指導教員と協議を重ね、修正を続ける

1月

- ・ 試作品：仮完成版の発表
 - 協力校の教員を招いて、台本・映像教材の改善点と活用法を話し合う
 - 協力校の教員と連携して、ワークシート等の補助教材を作成する→ウェブの利用

2月

【第3期】教材試行期

- ・ 映像メディア教材を活用するための授業計画の共同開発
 - 協力校の教員と相談→ウェブ利用
 - 協力校の実態把握のための訪問・観察
- ・ 授業計画案を基づいて実践，反省
 - ビデオと筆記で授業記録をとる
 - 児童に対してはアンケートを実施
 - 授業後は，協力校教員と実践を振り返る，成果と課題をその都度確かめて改善へ

3月

協力校教員から見た意義

- ・映像メディア教材を使うことで
 - マンネリ化しやすい授業を活性化できた
 - 子どもの学習経験を広げ深めることができた
- ・ 院生へのアドバイス, 院生との交流を通して
 - 教材研究, とくに教育内容の構造化の大切さを再認識できた
 - 結果的に自己の実践を振り返る機会が得られた。社会科指導のあり方を改めて考えた
- ・大学院との連携は, 学校としても歓迎。子どもと日々の授業を捉える「眼差し」の多角化をはかる格好の機会

大学院生から見た意義

- 映像メディア教材をつくって
 - 授業理論について理解が深まった
 - 教科教育と諸学問を統合する必要を実感
- 協力校教員と交流を深めるなかで
 - 子どもの視点に立った教材づくりが分かる
 - 地域の実態を踏まえた授業づくりが分かる
- 実践を通して浮き彫りになる知識・争点
 - 同じ教材でも、学年で子どもの理解が異なる
 - 同じ教材でも、教員で解釈や教え方が異なる
(映像を止めながら、繰り返し問いかけ予想させる
VS 映像を一気に見せて、後で内容を吟味させる)